北海道釧路湖陵高等学校

SSH newsletter

発行日：2018.11.26
発行者：SSH 推進部
No. 10

□□ 探究活動再スタート□□

１０月23日（火）SSH特別講演会　篠原先生の講演を終えて
ひふみんアイ～「相手の立場から見る」

【みなさんの感想より】

「相手の立場に立って物事を考えることの重要性に気づいた」多くの生徒の感想です。いくつか紹介します。

（環世界）

「私たち人間と他の生物が見ている世界は違う。」講師の先生が何気なく冒頭でおっしゃったその言葉が私に刺さった。私は、私が見ている世界を「当たり前の世界」として認識していたが、そんなものは当たり前ではない。当然のことだが、「当たり前」のフィルターが外れない私にとっては目からうろこであった。（以下省略・2年女子）

他者の目線になって考えると言うことは、未だAIには難しい技術とおっしゃっていたので、その点を克服できない限り、AIは人間を支配することはできないと思った。（抜粋・2年男子）

相手の立場に立って考えること、すなわち相手の環世界を理解しようとする姿勢が重要だということがわかりました。また、自分の個人的な考えとして、「ひふみんアイ」の重要性については、人間と動物のみならず、人間同士においても同じだと思いました。同じものを見ても、同じ体験をしても、何を感じ、何を考えるかは人それぞれであることから、他者を理解するためには自分の主観ではなく、相手の立場に視点を置くことが大切であるという点で、「ひふみんアイ」のスキルは、探究活動のみならず、生きていく上で非常に重要なスキルであると思いました。
（抜粋・１年男子）

他の生物と重なる世界が少ない中で、重なるところでわかり合おうとする考えが素晴らしいと思いました。人間世界でも相手の立場に立つことの大切さを改めて知りました。
人の知性が３つあるなかで、１つだけ極めても駄目で、時と場合によって使い分けるのが大切。その中で人間は３つの知性を合わせて様々な事をしていることにとても興味がわきました。社会的知性で、他の動物だけじゃなく、人間の心を理解できるようになりたいです。（以下省略・2年男子）

（社会的知性）

人間は、博物学的知性、技術的知性、社会的知性、すべてを合わせて、言語として相手に伝えることができることは、他にはないことなので、関係性を考えつつ、有効に活用していきたい。（抜粋・2年男子）

社会的知性をフル活用しなければならないと思いました。「はやぶさ」の話をして頂いて、最期に地球を見せた、という話を聞き、これは社会的知性をもった人間や動物にしかできないことなので、大切にしていきたいと思いました。そして、これを実行するには、やはり相手目線、対象目線で物事を捉えることが必要だと思いました。常に自分目線で自分主体で研究を進めていくのではなく、自分ではない視点から見て、気づいて、考えて、発信していきたいです。
（抜粋・2年女子）

（将来の夢）

先生の経歴がとても面白いと思った。大学の教授になるような人でも年相応の悩みや夢があるのが新鮮だった。私にもいろいろな憧れはあるけれど、できないことも多いので、そういうことも努力を続けていれば何かしらに還元できたり、関わっていけるんだなぁと、先生の話を聞いて思った。（中略）自分も好きなことを生かしながら、追いかけながら楽しんで生きていけるような大人になりたい、と強く感じられる講演だった。これから始まる探究活動は、もともと決まっていたものを選ぶ形ではあったけれど、自分で考えて選んだものなので、自分の興味をもっと伸ばしていける、意義のある活動にしていきたいと思った。（１年女子）

学生の頃の夢は案外大人になってから叶うことはなく、思ってもいなかった職についていたり、活動をしているものなのかと知り、今の夢を追いかけるのも大事だが、これからの可能性が広がるように今できることをやろうと思った。（抜粋・2年女子）

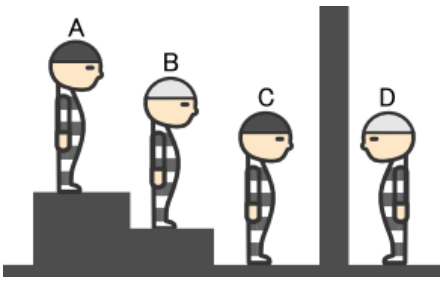
□講演を聴けなかった人へ

～人間がもつ社会的知性の存在に気づかせるクイズ～

右図のように４人が並んでいます。それぞれは自分の前方しか見ることができないが、白い帽子と黒い帽子が2個ずつあることは知っています。CとDは壁しか見えません。

互いに会話することなく、自分の帽子の色がわかるのはA, B, C, Dの誰か？

相手の立場に立って考える視点がないと答えが出ません。



□環世界～「相手の立場から見る」ためのキーワード

「環世界」は、ヤーコブ・フォン・ユクスキュルが、その著書「生物から見た世界」で提唱した概念として紹介されました。動物は、客観的な世界ではなく、それぞれの動物がもつ感覚器官によって主観的に創りあげた「環世界」で生きている。イルカは、色は識別できないが、音についてはヒトが認識できない周波数の音を聴くことができる。イルカを理解するためには、イルカの感覚、知覚から創りあげられる「環世界」を理解する必要がある。そのためには、「相手の立場から見る」多角的な視点が重要である。

環世界を「価値観」と置き換えるとわかりやすいかもしれません。個人の価値観は、これまでの経験にもとづいて形づくられます。相手の価値観を理解しようとするとき、皆さんはどうしますか？恋愛では、相手の気持ちを必死で考えます。考えすぎて、時には少しおかしくなることもあります。でも、好きだから相手のことを考えます。少し、話がそれました。

今週再開する探究活動や課題研究では、探究するテーマを「恋人」にして下さい。科学者であり、文豪と呼ばれた寺田寅彦は、**「科学者になるには自然を恋人としなければならない。自然はやはりその恋人にのみ真心を打ち明けるものである。」**という言葉を残しています。

□日高敏隆特設コーナー

湖陵高校図書室カウンター横。

寺田寅彦の本も、科学道100冊の中にあります。

□動物行動学における３つの知性とSSH

「博物学的知性」「技術的知性」そして「社会的知性」

その人がもっている博物学的知性（知識）や技術的知性（スキル）は何らかの方法で調べることができそうです。「社会的知性」はどうでしょう。自分は社会的知性をどのくらい身につけているのか？社会的知性を身につけるにはどうしたらよいか？　視点を変えて自分自身を見つめる必要がありそうです。

湖陵高校のSSHでは、主体性、創造性、国際性を身につけることを目指しています。これら３つの力は、博物学的知性と技術的知性を土台とした、社会的知性と言えそうです。今後の学びの中で、3つの知性の関連性やバランスを意識して取り組むことは、とても大切なことと思います。

～第３回　Ｅプラン提案会～

平成 30 年 12 月 5 日（水）15：45～

（詳細は提案数により後日決定）

企画書等提出〆切：11 月 28 日（水）16：45（厳守）

提出書類：E プラン企画書＋レポート等（書式自由）

提出先：職員室教頭先生の「E プラン提出箱」

企画書は、SSH 掲示板にあります。

【予算規模：約 100 万円】

３名のグループで研修に行くことを想定して予算を立てています。

（個人の提案も可能です。）

道外　１～２件　道内　２～３件

【E プラン：３つの募集領域】

① E プラン for Research･･･最先端の研修、学会発表にチャレンジ！！

対象：理数科の課題研究、科学系部活動の研究

② Eプラン for Advanced Training　対象：全校生徒

…熱意を伝えて、理想の研修を提案！！

③ E プラン for Selection…サイエンスイベントに参加する権利を！！